

るさへ  
探訪

月 曆

四国・四分六・四月馬鹿

暖冬異変の季節も四月となり、「雪解け・せせらぎ・丸木橋」の北国の春へと移り変わったおらが里である。

四国……四国と言えば徳島（阿波）・香川（讃岐）・高知（土佐）・愛媛（伊豫）の四県の総称であり、四国八十八箇所（巡礼所）の四国札所である。弘法大師空海のゆかりの仏教霊場として、一番札所（徳島県鳴戸市）の霊山寺から高知 愛媛を巡礼して八十八番札所（香川県長尾町）の大窪寺に至る「四国巡礼」



は、四国参り・四国巡り・四国遍路ともいわれ、正に「同行二人のお遍路さん」の八十八箇所巡りである。

例えば、一八九五年（明治一八）から開拓百年余を経たふるさと東川には、香川・愛媛からの集団移住者も多く、いわば県人生活の名残りが伝統文化として暮らしに息づいている。例えば「雑煮」ひとつをとって見ても、四国はもちろんのこと、北陸・東北の各県特有の風味が受け継がれている旧家もある。「ばあちゃん味の」として……。

四分六……しぶろく、四分と六分の割合をいい、四分六分である。山分け（皆で手に入れたものを等分したり、目分量で同じくらいに分けたりする。）をするのではなく、四分と六分に差をつけて分けることから、「四分六」といわれてきた。

フティ、半分）は仲良く平等に分けることであるが、起きてはいけない昨今の交通事故などでは、八二とか七・三」といった割合での損害補償などがあって、車時代の分配も大変である。

ところで、話を再び山分けにもどしてみると小学生時代に父が向こう三軒両隣の三人組で冬の薪山から馬糞で運送した薪の山分けをしていたことを思い出すが、端数の薪材はくじ引きで分けたり、御負けを付けて「じゃん拳」をしたりして、和気あいあいの酒盛りで共同作業を続けていたことなどが懐かしいこのごろである。

四月馬鹿……エイプリルフールの四月一日には、嘘をついて人をついでもよいという西欧の風習が四月馬鹿で、万愚節といって万聖節（十一月一日のキリスト教会で諸聖人を祝う日）に対比して名付けた呼び方もある。

- ・人も樹も雪を忘れて四月馬鹿（阿部みどり女）
- ・万愚節日にいくたびも物さがし（小野寺満子）
- ・四月馬鹿玉葱刻みつつ泣けり（米田 一穂）
- ・針の目に子の眼を借りる四月馬鹿

（原田走日朗）  
・エイプリルフールの夢の宝くじ（有本 経生）  
などと、ふくよかな味のある嘘が味わえるようでも……。

嘘はやつぱりよくないし、嘘つきは泥棒の始まりであるし、嘘つばちは信用にかかわることも当然であるから、四月一日だけの限定嘘（？）には、冗句・冗談・エスプリ・ユーモアそして滑稽などと、おあらかな味のあることも味わうような四月一日でありたい。それには、「まさかとまたか」、「うそとほんと」、「嘘から出た誠」、「嘘も方便」などと、日ごろの「おつきあい」のおたやかなことが肝要である……。

さて、四季四恩、四苦八苦、四隣互助、そして四面楚歌なども考えるような毎日でありたい。しかも、ふるさと探訪「月曆の語呂合わせ」もあつまり四の五の言わずに終らせて、春暖のうららを全身に受けた毎日を過さなくちゃ……。

（元）郷土史編集専門員  
尾 池 隆 男